



私のそろばんとの出会い

東京大学 高山 皐

こんにちは。秋田県でそろばんをやっていた^{たか}高山^{やまこう}皐です。現在は東京大学文科二類の一年生です。

戸井田和明先生が主宰する秋田あんざんアカデミーに所属していました。年長の5月に、母の勧めで入塾しました。あっという間にはまってしまい、県最年少で暗算検定一級に合格しました。小学生の頃にはそろばん漬けの日々になっていました。算数の授業は退屈で、筆算しないで答えを書くバツにされたのが一番しんどかったです。放課後は家に帰って軽食をとってそろばん教室に向かい、毎日2～3時間、土日も8時間くらい問題用紙とにらめっこし、小3で全珠連の暗算十段、小6で日珠連十段、小学生東北一までがんばりました。そろばんの全国大会が多いおかげで、遠征に行く度に刺激的な経験をさせてもらっていました。

私にはもう一つの習い事があって、それが「囲碁」です。コロナ禍の時代に家でネット対局しているうちにはまりました。そろばんと囲碁の二刀流をしている人はなかなか珍しいかもしれません。そろばんはコンマ数秒を争い、制限時間は長くても数十分、短ければ数秒というものもあるほど一瞬の競技で、たくさんのライバルと同じ紙面上で戦いますが、囲碁は一局打つのに平均して一時間以上かかり、1対1の盤面上の頭脳戦です。見た目も中身もかなり異なる両者ですが、実は囲碁においては計算力がかなり重要です。囲碁は囲った陣地の大きさを争う競技なので、自分の陣地と相手の陣地を数える必要があります。将棋は駒の配置をもとに形勢判断しますが、囲碁では陣地を数えないとそれができません。強くなるには形勢判断の速さが求められるため、計算の速さは有利に働きました。全国高校選手権では個人・団体

ともに三年連続ベスト8に入賞し、最高成績は準優勝でした。

もう一つ、私ががんばったことは「東大受験」です。そろばんに夢中だった頃は、まさか自分が東大生になるとは思ってもみませんでした。しかし、そろばんがなければ、私が東大に合格することは絶対になかったと思います。それくらいそろばんが僕の能力に与えた影響は莫大でした。まず、成功体験のおかげで自己肯定感が上がり、悔しい思いや困難にぶつかっても闘い抜く忍耐力や集中力が磨かれ、精神面が強くなりました。計算力一辺倒ではないので、恩恵が数学に偏らず全教科に及びました。例えば、数字の記憶力が単語や年号の暗記に活きたりします。

さらに、計算時間がほぼかからず、数理教科の学習効率が非常に良く、数学の苦手意識が消えます。数字に対する感覚（特に倍数・約数的な感覚）が圧倒的です。解の吟味や代入、検算もすらすらで、複雑な計算を頭の中でゴリ押しで計算することも可能です。メリットは書き尽くすことができませんが、要するに、挫けず極めたことで、そろばんが間違いなく東大受験の強い味方になってくれたということです。

私の人生においてそろばんの果たした役割は計り知れません。戸井田先生をはじめたくさんの方々の支えがあって今ここに立つことができています。感謝の気持ちでいっぱいです。もし子どもにそろばんを習わせようか迷っている親御さんがいるなら、一度はそろばんを試してみしてほしいです。そろばんは秘めたる能力を測る試金石となり、その能力は一生自分のそばで輝いてくれます。そろばんの魅力がもっと広まり、そろばん人口がもっと増えてほしいなと思います。